

所沢市における障害者の災害対策活動

チーム並木8(所沢市並木町8丁目)、荒幡町自主防災会、新所沢東連合町内会、バンダナ作成委員会、緑町けやきの会
よつばくらぶ、マルチメディアデジジー所沢、ふれあい、北村弥生(国立障害者リハビリテーションセンター研究所)
kitamura-yayoi@rehab.go.jp http://www.rehab.go.jp/ri/fukushi/ykitamura/kitamurayayoi.htm

所沢市地域防災訓練への参加:ちょっとした工夫と協力でクリアできます! 自分から動くことで、地域や市役所からの協力が得られました

背景: 障害があるために防災訓練に参加できない場合がある
→参加できる方法を探して試そう! 知ってもらおう!
・防災訓練は、実際の避難とは状況が違うけれど、地域の人に障害の状態や介助方法を見てもらう機会になる。
・地域の人に、ちょっと手助けしてもらおう方法や地域活動への参加方法を探していこう。

視覚障害

- ・自宅から避難所まで一人で歩けない
- ・会場の様子がわからない
- ・訓練が見えない



視覚障害者はガイドヘルパーに自宅まで迎えに来てもらって参加。来年は、近所の人と一緒に移動したいです。会場の建物配置とトイレの構造を確認した。訓練の多くは見えないとわからないので工夫が必要。(中央小)

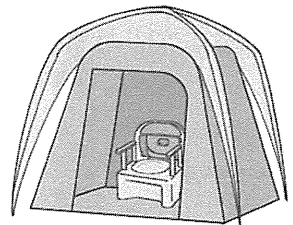
発達障害・精神障害:

- ・一人の空間がほしい
- ⇒一人用テント、ヘッドホン等の使用を町内会に事前に相談できるとベスト
- 訓練に参加しにくい
- ⇒スタッフとして役割を持つ



車いす:和式トイレ、仮設トイレ、狭いトイレは使えない

⇒ 災害弱者用トイレ+介助、介護用トイレ+テント+介助



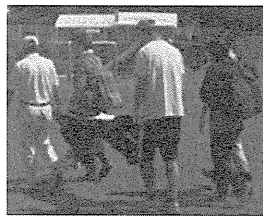
災害弱者用トイレを8町内会長で事前に紹介。介護用トイレとテントでも、組み立て時間40分、置く場所、照明、掃除用具の準備も必要。介護用トイレよりも安定性が良かった。カーテンの明け閉めに介助が必要。(美原小)

聴覚障害:アナウンスが聞こえない⇒筆記すればいい!

⇒力仕事等は協力できます!



画用紙に訓練スケジュールを書いておいて、当日、追加を記入した。2年目は、自主防災会が画用紙とマジックを用意してくださいました。(荒幡小)



担架に乗っているのも運んでいるのも、ろう者です。右の黒い服は手話通訳者。(荒幡小)

知的障害者:

- ・訓練の意味がわからない
- ⇒事前の説明
- ・飽きてしまう
- ⇒レクリエーションの小物(シャボン玉、防災ゲーム等)

体育館の入り口に3段階がある⇒2~4人で持ち上げられる!



平成24年度は国リハスタッフ(黄色Tシャツ)が車いすを持ち上げた。黒Tシャツは、さっと手伝ってくださった市役所職員さん。(美原小)

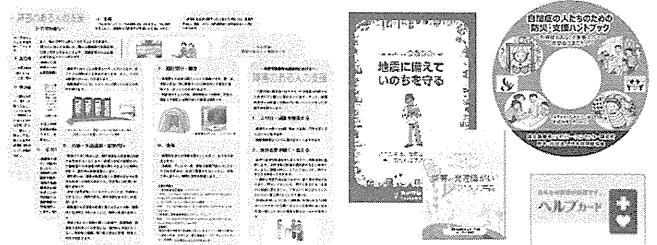


平成25年度は、町内会長さんの調整を得て、町内会の人に手伝っていただいた(美原小)

当事者発信の防災学習会:チーム並木8

開催	議題	聴覚	視覚	人数 (会場は並木まちづくりセンター)	合計	
26年				町内・支援組織		
3月	課題共有	5	3	0	ボランティアふれあい1、国リハ2	8+3
7月	訓練日介助者への研修	1	3	0	ボランティアふれあい2、国リハ11	4+13
8月	訓練参加についての確認	2	3	0	国リハ1	5+1
8月	地域防災訓練	2	4	1	介助者1、手話通訳者2、国リハ4	7+7
9月	防災訓練振り返りと今後	2	2	1	町内会長2、市民組織1、国リハ1	5+4
11月	障害者週間展示準備、次年度計画					

障害当事者のための防災マニュアルの開発と評価(五里江陽子、マルチメディアデジジー所沢、北村弥生)



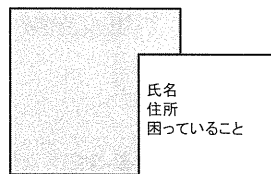
- ・これらを教材にした訓練を開発予定。協力者募集中。
- ・リーフレットは、平成24,25年度の地域防災訓練(美原小)では、参加者に配布。東京都が原案を作ったヘルプカードも各自で準備してほしい。

聴覚障がい者災害時援助用バンダナ:バンダナ作成委員会



・所沢市聴覚障害者協会、所沢市登録手話通訳者連絡会、所沢市登録要約筆記者連絡会、所沢手話サークル、要約筆記「つくし」が「市役所障害福祉課」の同席のもとに、派遣事務所が事務局となり作成しました。避難所備蓄倉庫にも配備予定です。
・聴覚障害者、手話通訳者、要約筆記者は「耳が聞こえません(紫)」「手話ができます(ピンク)」「筆談ができます(紫/ピンク)」を外にしてつけます。
・着け方によっては文字が見えないこと、わかってもどうしてもいいかわからない人が多いこと等の課題も、防災訓練で着用して明らかになりました。

安否確認の黄色いハンカチ:緑町けやきの会



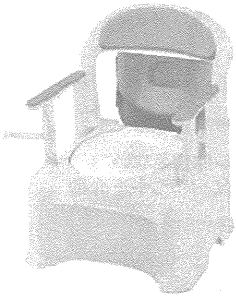
・緊急時、無事なら黄色いハンカチを玄関の外につるす、依頼したいことがあれば、紙に書いて、玄関につるし、近所の人かボランティアに渡す。
・平成25年度の防災訓練で緑町町会の参加者に配布した。新所沢まちづくりセンター主催のまちづくり協議会でも取り上げ、市の予算を得て、新所沢地域の自治会町会で配布を検討中。

それぞれの活動にあたっては、所沢市障害福祉課様、危機管理課様のご協力をいただきました。ここに、感謝いたします。

災害時に要援護者に役立ついろいろなグッズ

★展示品：12/8-9★ インターネットで検索すれば定価より安価に入手できます

介護用トイレ



きらく PS2型 (21,000 円)
(株)リッチェル

キャンプ用テント



クイックどこでもターププラス 220-L
(19,699 円)(株)
ロゴスコーポレーション

キャンプ用ベッド

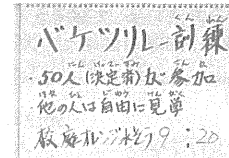
携帯用エアクッション



TOUR HAMMER
アウトドアベッド
(7,000 円程度)

アナウンスを筆記して

掲示する文具

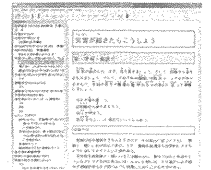


画用紙

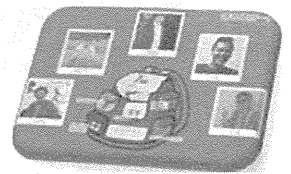
マジック

掲示する場所(テープ、紐、
ホチキス等)

防災教材

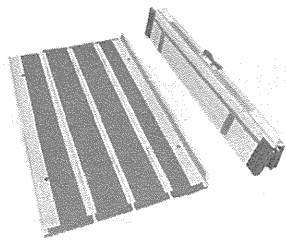


マルチメディア版「自閉症の人の
防災・支援ハンドブック」※1



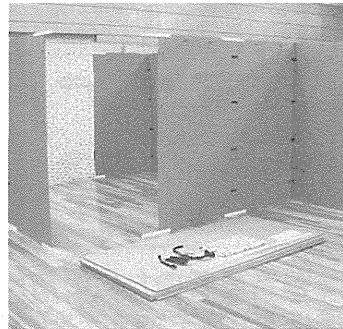
iPad 版「守るリユック」※2

★非展示品★



折り畳み式超軽量携帯用スロー
プ デパック E.B.L エッジ付き
(120cm 79,000 円)

階段により長さは異なります
中学校の木工の時間などに
作れたらいいと思うのですが。



屋内用:間仕切り (1枚 4,000 円)
社会福祉法人 AJU 自立の家
わだちコンピュータハウス
等

【断水でトイレが使えなくなった時のために】

猫砂、新聞紙、ビニール袋、芳香剤

汚物保管用ポリバケツ、

【電池式ラジオ】

【医薬品：1-2週間分】

【電気の代替品】

足踏み式吸引機、アンビューパック、

発電機(燃料も含めて取扱注意)、

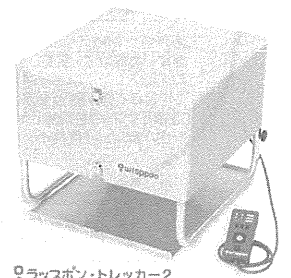
カセット式コンロ、ホカロン

【時間潰しする物】筆記具、おもちゃ、本

【避難できる場所の準備】

【手伝ってくれる人・できることの発掘】

排泄物を真空パックする



ラップポン・トレッカー-2

ラップポン・トレッカー-2

(168,000 円)

日本セイフティー株式会社

組み立て方法は要練習

いずれも、類似の製品が多数ありますので、使いやすい物を選んでください。

※1 国リハホーム—ページから公開準備中。 <http://www.rehab.go.jp/ri/fukushi/ykitamura/kitamurayayoi.htm>

CD などでの配布希望の方は下記までご連絡ください

※2 一般社団法人 福祉芸術支援協会 <http://www.wasa.or.jp> から公開予定。

【連絡先】

kitamura-yayoi@rehab.go.jp FAX: 04-2995-3132 (国リハ研究所 北村弥生)

National Rehabilitation Center for Persons with Disabilities
**Disaster Preparedness and Community Development for
 Persons with Disabilities**

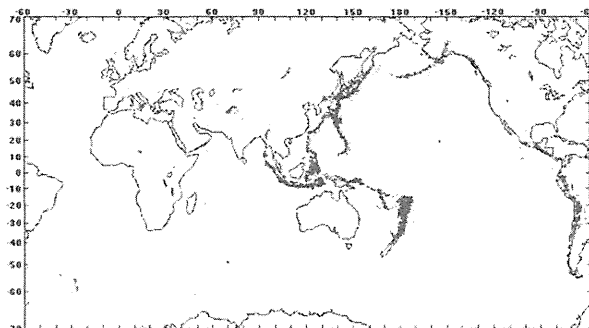


Preparedness → Evacuation → Shelter
<http://www.rehab.go.jp/english/whoclbc/reference.html>

Yayoi KITAMURA
kitamura-yayoi@rehab.go.jp

WHO collaborating center seminar to share experiences of natural disasters among China, Indonesia and Japan

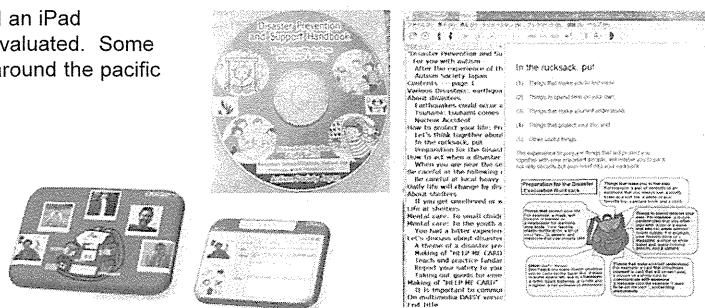
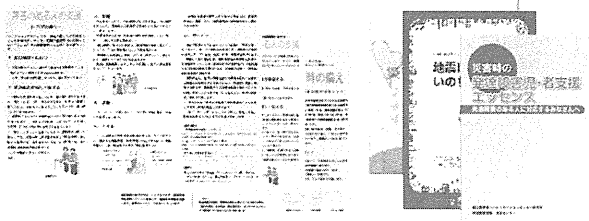
Asia-Pacific is the region most adversely affected by disasters. Evidence from Great East Asia Japan Earthquake showed that persons with disabilities are two times more likely to die than the general population when a disaster occurs. National Rehabilitation Center for Persons with Disabilities in Japan have studied disaster preparedness for persons with disabilities since Hanshin-Awaji Earthquake of 1995, and disseminated related information through the Internet and WHO collaborating center seminar with representatives from Republic of China and Indonesia in February of 2012.



A red dot on the right map shows the place where a big earthquake hit.

Sharing educational materials of disaster preparedness for persons with disabilities

Two accessible manuals, three brochures, three leaflets and an iPad application for disaster preparedness were developed and evaluated. Some of them were translated into English to share with countries around the pacific rim.



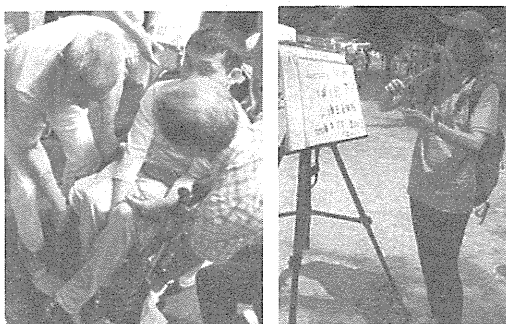
<http://www.wasa.or.jp>

Gathering and developing experiences of persons with disabilities at evacuation drills and developing measurement of environmental safety for persons with disabilities in natural disasters

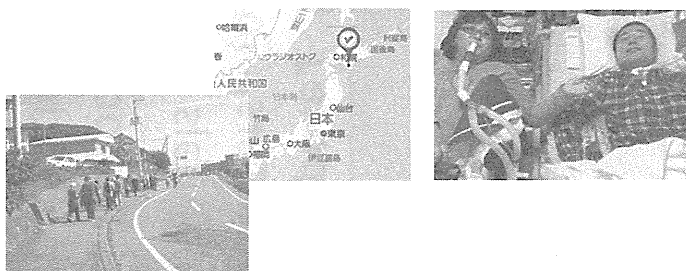
- In addition to disability awareness by community residents, participation in community activities by persons with disabilities have increased after they joined the community disaster drills.

- Evacuation Drills at Urakawa, which was awarded United Nation Zero Project, have been continued for 10 years by a team of group with mental illness, local government, neighborhood agencies and researchers.

- Zurayata Project runs disaster preparedness group works and evacuation drills as a part of peer activities.



Left: Neighbors lifted the wheel chair up and down the stairs in the second year of a disaster drill.
 Right: Announcements were written down on a board for the deaf at a community disaster drill.



Left: Evacuation drills for tsunami at Urakawa. Right: Members in Zurayata Project

The Tokyo Conference on International Study for Disaster Risk Reduction and Resilience.
Tokyo. 2015-01.

Research Project supported by Health Labour Sciences Research Grant
**Development and Dissemination of Disaster Preparedness
Manuals and Drills for Persons with Disabilities**

Yayoi Kitamura (National Rehabilitation Center for Persons with Disabilities)

【Purpose】 Persons with disabilities(PWD) have a lot of difficulties at natural disasters. To increase the ability to cope with emergencies, disaster preparedness manuals and drills for PWD were developed and showed the effects.

【Methods】 Two accessible manuals, two brochures, three leaflets and an iPad application for disaster preparedness were developed and evaluated. The relation between PWD and local residents at disaster drills were observed for 2 years.

【Results】

- Handout leaflets were acknowledged a lot by local residents.
- Online accessible manuals were failed to be downloaded by half of service providers.
- The local residents' skills to assist PWD and communication between them were increased.



厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業）

「障害者の防災対策とまちづくりに関する研究」

平成 24～26 年度 分担研究総合報告書

障害児者を対象とした災害準備教材の開発と評価

研究分担者 前川あさ美 東京女子大学

研究代表者 北村弥生 国立障害者リハビリテーションセンター研究所

研究要旨

知的・発達障害（児）者自身が災害・避難・避難生活について理解するための教材（「自閉症の人のための防災・支援ハンドブック」マルチメディアデージー版（日英）、「防災実践BOOK 地震に備えていのちをまもる」（所沢版発達障害編、全国版一般編）と教育プログラム（iPadアプリ「まもるリュック」（日英））を開発し、被災地における支援の中で評価を依頼し、幅広いニーズを明らかにした。また、障害児者本人が主体的に学習するための方策も求められることを明らかにした。その一つの方法として、iPadアプリケーション「まもるリュック」を開発し、無料公開した。

A. 目的

本研究では、障害児者が主体的に災害準備に取り組むための教材を開発し、その効果を評価することを目的とする。災害対策は自助を必要とするために、主体的な準備は不可欠だからである。

B. 方法

障害（児）者が、「助けられる者」としてではなく、主体的に避難訓練・避難行動に取り組むための確信と決意を持つための教材を開発した。内容、表現、体裁に配慮した。また、障害児者自身が読むために、印刷冊子の他に、パソコンで自動読み上げされるアクセシブルなPDFとマルチメディアデージー版も作成した。研究代表者の所属機関のホームページからあるいは印刷物・CDとしてから発信して障害児の保護者

と支援者に評価を依頼した。

C. 結果と考察

表1に、本研究で製作した障害児者のための災害準備教材を示す。一部は、平成24年度および25年度総括報告書に掲載済みである。本冊子には、表では、ゴシック体で表記した未掲載あるいは掲載版を改定した教材を、（資料2）～（資料11）に掲載した。

マルチメディアデージー版のインターネットからのダウンロードは対象者（支援者）の約半数が失敗したが、CDは再生することができた。いずれの教材についても2日に1件の割合でダウンロードされていることが履歴記録により明らかになった。

教材の内容と体裁は、概ね肯定的に評価されたが、「分量が多い」「表現が難しい」

「発達障害と書くと、障がい告知してない本人に見せられない」「もっと障害に特化した内容にしてほしい」「自分のことを書き込めるワークシートがほしい」等の意見も出て、多様なニーズがあることが明らか

になった。評価の回収率はよくなかったことから、家庭で母親や本人だけで準備するのは負担が多く、学校、課外活動、職場などでの災害準備教育の必要性が示唆された。

表1 障害児者のために製作した災害準備教材

著者	タイトル	印刷	PDF	マルチメディア デジア イジー版	その他	評価
(社)日本自閉症協会	自閉症の人のための防災・支援ハンドブック(本人・家族編)	既存 A5, pp. 25	○	○	本人編	支援者
訳者:研究班	Disaster Prevention and Support Handbook for People with Autism (for you, and your family)	A5, pp. 46	○	○	本人編	-
前川あさ美	災害と発達障がい	A5, pp16	○	○	-	-
前川あさ美	Disaster and ASD	A5, pp16	○	準備中	-	-
研究班	発達障害のある人の防災実践BOOK(所沢版)	A4, pp36	○	-	イラスト	母親
研究班	防災実践BOOK(全国版一般編)	A4, pp36	○	-	-	-
北村弥生	災害の備え	A4両面	○	-	-	未
北村弥生	障がいのある人の支援:避難所で	A4両面	○	-	-	未
北村弥生	障がいのある人の支援:在宅避難の場合	A4両面	○	-	-	未
前川あさ美ら	iPad アプリ「まもるリュック」(英語版“My Ready Go Pack”)	無料ダウンロード	-	-	-	支援者、親
前川あさ美ら	iPad アプリ解説書	A5, pp12	○	-	-	-
前川あさ美ら	英語版 iPad アプリ解説書		○	-	-	-

ゴシック体で示した教材は本報告書に掲載した。

下線のついた教材は平成24-26年度 総括報告書に掲載済み。

Compilation of “Disaster Prevention Handbook for People with Autism” and its Use in the Great East Japan Earthquake

OYayoi Kitamura (National Rehabilitation Center for Persons with Disabilities)
Yoshiko Abe, Kazuko Shirai (Japan Autism Society)
Hiroshi Kawamura (NPO Assistive Technology Development Organization)

Purpose: This article describes the general plan and the effectiveness of “Disaster Prevention Handbooks”, both “for service providers” and “for people with autism and their families” published by Autism Society Japan Publishing Department.

Background: The handbooks have been developed because special strategies suitable for the characteristics of autism are required for service providers to help people with autism at the time of disasters. Planning own evacuation plans are also required for people with autism and their families, and copies of handbooks have been distributed free of charge to the related organizations and through the Internet.

At the Great East Japan Earthquake 2011: The next day of the Great East Japan Earthquake 2011, Autism Society Japan set up an earthquake disaster page on the web site and made the “Disaster Prevention Handbook” available to be downloaded on cellular phones. The highest number of access to the web site was nearly 25,000 a day.

Revision of the handbook: Although the effectiveness of the handbooks have been proven in the Great East Japan Earthquake, they were revised to 1) teach tsunami, 2) offer the disaster prevention education and disaster preparedness drills, 3) set up shelters and individual plans for people with autism, 4) promote mental care, 5) cope with radiation, and 6) prepare at the work place. The Publishing Department aims to make the handbook also useful in daily lives, because “every day is just co like living through a disaster” for people with autism.

Multimedia DAISY version: The handbook was also transformed into multimedia DAISY format for persons with print disabilities including visual impairment, dyslexia, autism, intellectual disabilities, upper limb disability who have difficulties to handle books or piece of pages. Educational program to use DAISY version will be developing soon.

English Version: The DAISY version handbook is translated into English and will be distributed through the Internet for English Speaking people who live and visit areas that are

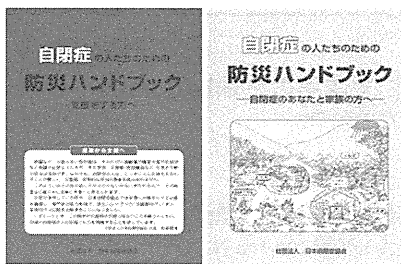


Fig. 1 Disaster Preparedness Handbook for Service Providers (Left) and for Persons with Autism and their families (Right).

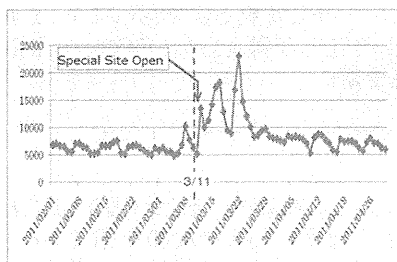


Fig. 2 Numbers of Access to the JAS web site before and after the Great East Japan Earthquake 2011. The number of access was increased significantly soon after the handbook was introduced on one of the major Japanese newspapers.

Contents

Introduction
A variety of natural disasters
In case of Emergency
Evacuation Drill
Register a list of persons who needs some help at the emergency evacuation at local communities.
Q&A
Evacuation Shelter
Health Care including Mental Health
Towards the restoration
Disaster Preparedness in peace time
Disaster Preparedness meeting at home
[Help Me Card]

Fig. 3 Contents of the handbook.

In Case of Emergency

1. Calm down.
Breathe deeply.
]Count down up to 3.
2. Keep yourself safe.
In case of an earthquake, protect your head with something such as bags.
Move to the safe place where books, glasses, and sign boards would be dropped down on yourself.



3. Ask help to anybody.
Call for help loudly.
Blowing a whistle to tell where you are, if you are burned under houses or funitures.
Call the emergency dial to make contact with your family member.



4. Move to a safe place like a shelter with your family or beighbours.



Fig. 4 A sample of discriptions in the handbook. The handbook will be demonstrated on iPad.

マルチメディアデージー版防災教材の作成と評価

北村弥生、村島完治、東江浩美、鈴木繭子、深津玲子
国立障害者リハビリテーションセンター

目的: プリントディスアビリティがある人による読み
に有効であることが示されているマルチメディアデ
ージー版(以下、デージー版)に「自閉症の人のための
防災・支援ハンドブック:本人・家族編」を変換し、そ
の有用性について支援者から評価を得る。

背景:地震等の災害が起こるたびに、自閉症児者の
困難が指摘されるが、具体的な準備方法は、よく知
られていない。平成20年に、社団法人日本自閉症
協会は、国際的にも初めて「自閉症の人のための
防災ハンドブック」(以下、ハンドブック)を刊行し、東
日本大震災で全国の支援者に活用された。しかし、
自閉症者本人が文字が読めなければ、「本人・家族
編」でも読めない場合がある。

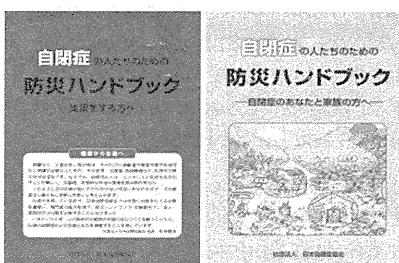


図1 防災ハンドブック(初版)の表紙

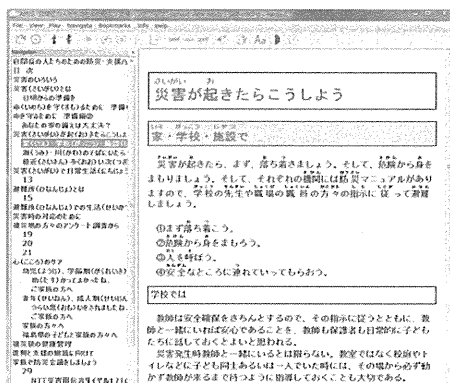


図2 デージー版防災ハンドブックの表示画面

図3 デージー版防災ハンドブックの操作性と内容に関する評価

方法:

(1) デージー版の作成

自閉症協会(编者)の許可を得て、HPからダウン
ロードしたpdfから本文(テキストファイル)と画像
(jpeg)ファイルを抽出し、編集ソフトsigtuna
(DAISYコンソーシアム)により、朗読音声を使用し
てマルチメディアデージー版を作製した。

デージー版では、すべての本文からなる本人・家
族版と、「読んでね」マークとルビが着いた部分の
みからなる本人版の2種類を作成し、ルビ付き部
分は女性に、ルビなし部分は男性に朗読を依頼し
た。

公開に際しては、第一著者のサイトからダウン
ロードできるようにした。再生ソフト(Easy Reader
Express, Dolphin社)を同梱し、Windows/パソコン
であれば、再生ソフトのインストールは不要とした。

(2) 調査

全国の都道府県および政令指定都市に86カ所
設置されている発達障害者支援センターのうち専
用サイトで接続している84カ所にオンラインで調査
を依頼し、48カ所から回答を得た(回収率57.1%)。

デージー版は回答者にダウンロードすることを依
頼した。質問項目は、デージー版に関する評価(操
作性、提供したい対象)であった。

結果:

(1) 操作性: 対象者の半数しか、「ダウンロードして見
た」者がいなかった。

(2) 紹介したい対象:

- ・2割が、当事者に紹介したいと回答した。
- ・「紹介したい対象がいる」は6割に満たなかった。

考察:

(1) ダウンロードして見るまで至らなかった理由には、
同梱ソフトの制約が考えられ、CDでの配布と評価を
実施する予定。

(2) 紹介を得られた当事者による評価を行う。

(3) 「紹介したい対象がいる」が6割に満たなかった理
由を明らかにすることは今後の課題である。すでに周
知されているのか、周知の意識や余裕がないのか、
教材の内容が適切でないのか。

発達障害児・者を対象にした防災教材の開発

北村 弥生 国立障害者リハビリテーションセンター 研究所

kitamura-yayoi@rehab.go.jp

<http://www.rehab.go.jp/ri/fukushi/ykitamura/kitamurayayoi.htm>

目的: 中学生以上で、一人で電車に乗って外出することがある発達障害児・者本人が読み、災害準備に役立つ防災教材を作成すること。評価は、この後、実施する予定。

背景: 災害時に、障害者は一般市民よりも多様な困難を抱えることが阪神・淡路大震災時に指摘された。特に、自閉症や精神障害では、対策が遅れていることが報告されたことに対して、「自閉症の人のための防災ハンドブック」(日本自閉症協会, 2009)、「災害時の発達障害児・者支援エッセンス」(国リハ発達障害情報・支援センター, 2013)等が刊行された。しかし、これらは支援者と親を主な読者として作成されており、当事者自身が読むことを想定されたマニュアルは見当たらない。「自閉症の人のための防災ハンドブック」には「本人・家族編」があり、音声読み上げを追加したマルチメディア・デジタル版も作成されたが(北村, 2013)、ページ数の制限もあり、発達障害児・者が読み、理解するための配慮はまだ十分ではなかった。

方法:

- 発達障害者支援の会の代表を10年勤め、支援冊子を作製した経験がある発達障害者の親に、パンフレットの構成、草稿執筆、デザインを、図版作成をイラストレーターに依頼した。書籍およびソフトウェアの紹介に図版を使用する場合には、著作権者から転載の許諾を得た。
- 読者は、著者の所属機関がある埼玉県所沢市に住み、東京都内に通勤あるいは通学する青年期発達障害者と想定した。一人暮らしや家族の旅行中に一人で在宅した際に被災することも想定した。また、外見的には困難が顕著ではなく、困難や対応方法が明確でないために、周囲から支援を得にくいことも想定する読者の特徴である。中学生以上を読者と想定し、漢字表記、語彙や読み障害への配慮は特に行わなかったが、平易な表現を用いたため、小学校高学年は一人で、低学年でも親などの助けを得て読むことができると考える。

結果

1. 内容と表現: 目次は「地震への備え」「地震後の行動」「避難生活」「あなたへのお願い」の4項目とした。主な内容は既存の防災マニュアルから転用したが、発達障害への配慮は4点であった。

(1) その行動を行う理由の説明: たとえば、避難訓練でよく使われる「身を守る」という言葉がわかりにくいという指摘に答えて、「いのちを守る」という表現にし、「頭にけがをしないようにすること」と具体的に説明を加えた。

(2) 支援を求めることを強調: サービスを定常的に受けていない発達障害者では、他の人と違う要求をすることに慣れていないと推測されるためであった。特に、緊急時には支援する側にも余裕がないことが予想されるために、繰り返し支援を求めることを、3箇所に記載した。

(3) 肯定的に行動を指示する表現: 禁止を示す以外に表現ができない場合には、猫のキャラクターに×のマークを持たせることで柔らかく表現した。

(4) 読者を「あなた」と呼称: 発達障害者は一般的な事例を自分のことに置き換えることが苦手だと言われるため、記載内容が自分と関連することを示すためである。

2. デザイン

A4版横書きで36ページ。デザインの留意点は5点。

- (1) 1ページの右から三分の一の位置に縦線を入れ、右欄には補足的な情報を記載。
- (2) 時間系列に従い記載し、項目別に色を変えた。
- (3) 本文の文字フォントは丸ゴシックとし、文字色はコントラストの強さによる読みにくさを緩和するために黒90%とした。紙はマットコート紙。
- (4) 文章の長さを短くし、二重否定を避け、平易な表現を用いた。



3. 内容の制約及び課題

(1) 提供すべき情報が確定しなかった項目: 居住または通学・通勤経路の自治体及び地区での防災体制や要援護者との協議事項に関する情報。例えば、「テントを避難所に持って行って、体育館で自分用に使うこと」など、特別な配慮として求めたいことであっても、自主防災組織などとの相談を事前に必要と推測されることがあった。事前に地域住民に必要を理解され、不自然にならない場所に設置する準備を進める方法を好事例として紹介できるようにすることは今後の課題である。

(2) 普及程度の異なる制度: 災害時帰宅支援ステーションは、首都圏の九都府市や関西広域連合で整備が進められているが、全国一律ではない。また、呼称が多様であったり、各店舗の認識にも差がある。ハンドブックでは、支援の手掛かりを広く示すことを優先し、限定的な表現をとらないこととした。

(3) 発達障害についての配慮が決まっていない制度: HPでは、災害時要援護者名簿の対象が身体障害者となっているなど、発達障害で利用できる読みない場合もあった。

考察:

青年期発達障害者が自己学習するための防災教材を市町村特性に配慮して作成した結果、居住地域における下記のような防災準備を具体的に進める素材になることが示唆された。

- (1) 当事者による準備(避難所の場所の確認、防災訓練への参加、地域住民との関わりづくり)、
- (2) 居住地行政における災害時要配慮者の施策に発達障害者を想定すること、
- (3) 自主防災組織における発達障害の認知と配慮の準備

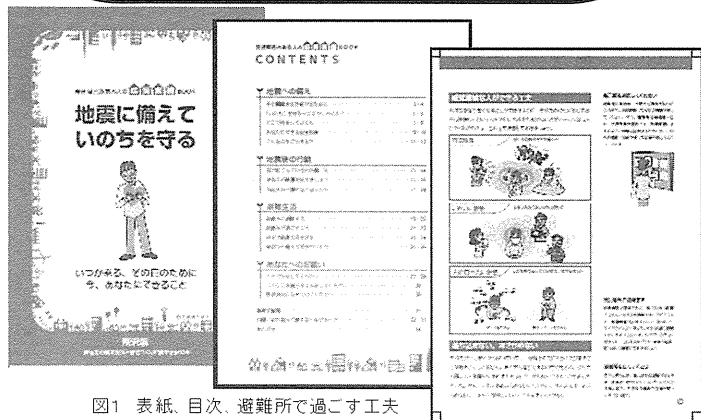


図1 表紙、目次、避難所で過ごす工夫

北村弥生

(Yayoi KITAMURA)

[English]

> [リハビリセンタートップページ](#) > [研究所](#) > [各部紹介](#) > [障害福祉研究部](#) > 北村弥生

更新内容 (2015年2月)

- 防災教材に画像を付けました。
- 防災実践Book全国版一般編[pdf]を追加しました。
- 報告書(防災研究)の[html]に日本障害者リハビリテーション協会へのリンクを付けました。
- 英語版防災教材に英語ホームページを準備中です。

研究テーマ

- 1 「災害時要援護者支援に関する研究」
- 2 「電子図書の有効性に関する研究」
- 3 「特殊なニーズのある子どもやその同胞に対する予防的ワークショップの開発に関する研究」
- 4 「高等教育における障害学生支援に関する研究」
- 5 「青年期発達障害者の家族支援に関する研究」
- 6 「進行性難病患(児)者の家族に対するボランティアによる支援に関する研究」

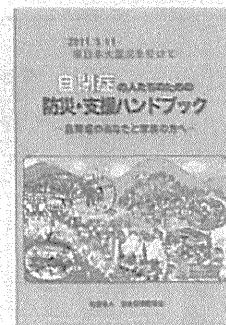
1 「災害時要援護者支援に関する研究」

- 厚生労働科学研究「障害者と防災と街づくりに関する研究」(平成24～26年)
★ 研究概要1[pdf]

(1) 防災教材

- ★ 防災教材概要[pdf]

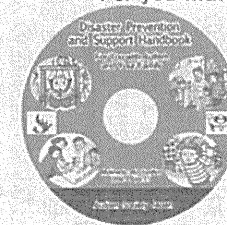
URL他、日々進歩する分野ですので、うまく動作しない場合は、連絡先までお問い合わせください。このマニュアルの更新に使わせていただきます。



- マルチメディアDAISY版
 - マルチメディアDAISY版(自閉症のあなたと家族の方へ)(49MB)
 - マルチメディアDAISY版(自閉症のあなたへ)(53MB)



- 英語マルチメディアDAISY版(自閉症のあなたと家族の方へ)
Disaster Prevention and Support Handbook for People with Autism
- For you with autism and your family -
- 英語マルチメディアDAISY版(自閉症のあなたへ)
Disaster Prevention and Support Handbook for People with Autism
- For you with autism -



- 英語マルチメディアDAISY版 訂正[pdf]
- マルチメディアDAISY版の使い方

- 英語版pdf
 - (自閉症のあなたと家族の方へ)[pdf]
 - (自閉症のあなたへ)[pdf]